

学士課程における

第1回 学位プログラム評価（総合点検）報告書

令和3年10月

新潟大学

## 目次

1	学士課程における第1回学位プログラム評価（総合点検）の概要	2
	1.1 報告書作成の背景	
	1.2 学士課程における第1回学位プログラム評価（総合点検）の枠組み	
2	各学部の第1回学位プログラム評価（総合点検）報告書	8
	2.1 報告書の構成	
	2.2 各学部から提出された報告書	
3	今後の取り組み	38

## 1 学士課程における第1回学位プログラム評価（総合点検）の概要

### 1.1 報告書作成の背景

学位プログラム評価は、本学の教育の質保証を目的として、学位プログラムにおける人材育成の実現状況を点検し、適切な改善に結びつけることを趣旨とする本学独自の主体的な取組である。6年毎に総合点検を行い、その終了から3年目に中間フォローアップを行うこととしている（※1）。

本学では、令和2年9月より1年をかけて、主専攻プログラムを対象として、学士課程における第1回学位プログラム評価（総合点検）を実施した。本報告書は、学位プログラム評価の実施枠組みを説明するとともに、各学部から提出された学位プログラム評価（総合点検）の結果等を取り纏めたものである。

### 1.2 学士課程における第1回学位プログラム評価（総合点検）の枠組み

#### （1）実施主体

学士課程における第1回学位プログラム評価（総合点検）は、学部を実施主体とし、各学部に所属する主専攻プログラム毎に行った。

#### （2）点検の範囲

学位プログラム評価（総合点検）では、学位プログラム評価の基準である「1.人材育成目標の適切さ」「2.カリキュラムの適切さ」「3.学修成果の評価と達成状況」「4.学位プログラムの改善状況」（※2）に基づき、プログラム毎に定めた学位プログラム評価指針（※3）に即して、資料・情報を収集してプログラムの現状を点検し、その課題を検討するとともに、改善計画を策定することとしている。

このうち、学士課程における第1回目の総合点検を取り纏めた本報告書では、「2.カリキュラムの適切さ」「3.学修成果の評価と達成状況」についての点検結果を収載した。「1.人材育成目標の適切さ」については、令和元年度の取り組みとして3つのポリシーの見直しを学位プログラム評価の趣旨を踏まえて実施したことから、点検の対象から外すこととした。また、「4.学位プログラムの改善状況」は、プログラムの点検結果に基づいて立てた改善計画の実施状況を検証するものであり、今後待つこととなるため、初回の総合点検においては、各学部から提出された「主な課題と改善計画」の内容までを掲載することとした。

---

※1 総合点検、中間フォローアップを実施しない通常年度においても、履修状況や学生の学修成果に対する意識などを継続的に把握し（モニタリング）、必要な授業改善などを進めることとしている。

※2 これら4つの基準は「新潟大学における学位プログラムの基本枠組み」（平成30年3月9日承認）において定められている。

※3 学位プログラム評価指針とは、各プログラムで学位プログラム評価の4つの基準に即した点検項目を定めたもので、令和元年度に策定した。

### (3) 点検の内容と方法

総合点検では、評価基準「2.カリキュラムの適切さ」及び「3.学修成果の評価と達成状況」に係る評価指針 2-1-1～2-2-7、3-1～3-3 を点検項目とした(表1)。これらの評価指針(点検項目)毎に、確認事項を設定し、各学部から提出された根拠資料を用いて評価指針を満たしているかどうかを点検した。

「評価指針を満たしていない」と判断された場合、当該学部等に対して、具体的な課題の抽出と改善計画の策定を求めた。

なお「2.カリキュラムの適切さ」のうち、評価指針(点検項目) 2-1-1については、令和元年実施の3つのポリシー改訂をもって確認済みとし、全てのプログラムで対象項目から外した。

また、令和元年度に開設したプログラム(※4)は、卒業生を輩出しておらず、学修成果の最終的な評価が困難なことから評価指針(点検項目) 3-1～3-3については点検対象としなかった。令和2年度に開設したプログラム(※5)は、カリキュラムの実施状況、学修成果の評価を実施することができないため、評価指針(点検項目) 2-2-1～2-2-7、3-1～3-3については点検対象としなかった。

---

※4 令和元年度開設のプログラムは、学校教員養成プログラム(教育学部)である。

※5 令和2年度開設のプログラムは、心理・人間学プログラム、社会文化学プログラム、言語文化学プログラム(以上、人文学部)、法曹養成プログラム(法学部)、経済学プログラム、経営学プログラム、学際日本学プログラム、地域リーダープログラム(以上、経済科学部)。このうち、経済科学部の経済学プログラム及び経営学プログラムは、名称は従来のとおりであるが、学部改組に伴い、カリキュラム編成を大きく変えていることから新設プログラム相当とした。

表1 評価指針（点検項目）一覧

		評価指針(点検項目)	確認事項
基準2 カリキュラムの適切さ	2-1-1	カリキュラム・ポリシーにおいて、ディプロマ・ポリシーに示された目標の達成に向けた編成方針（科目構成と配置）、学修内容・方法、学修成果の評価方針を具体的に示しているか	点検対象外（令和元年実施の3ポリシー改定作業をもって、確認済みとする）
	2-1-2	科目構成は、ディプロマ・ポリシーに示されたプログラムの到達目標（目標としての学修成果）と対応しているか	①プログラムの到達目標達成の観点から、科目が体系的に設定されているか（科目構成に抜け漏れや、重複がないか等）。 ②プログラムの到達目標達成の観点から、授業科目がバランスよく配置されているか（教養教育・専門教育、必修・選択等の割当が適切であるか等）。 ③プログラムの到達目標の観点から、カリキュラム・マップに示した各科目への目標の配分、重みづけは適切か。
	2-1-3	科目の配置は、科目間のつながりや順序の観点からみて適切か	①カリキュラム・ポリシーに基づき、必修科目・選択科目の配当など、適切に授業科目が配置され、教育課程の体系的性が確保されているか。 ②プログラムの到達目標達成の観点から、科目間のつながりや配置の順序など、科目配置の系統性は適切か。
	2-2-1	科目の目標に応じた適切な指導が行われているか（内容・水準、方法等）	①1単位の授業科目を45時間の学習を必要とする内容をもって構成する原則を踏まえ、科目の内容が設定されているか。 ②授業評価アンケートの結果を踏まえ、シラバスで設定した科目の水準に関して適切に実施されていたか。 ③授業形態（講義、演習、実験、実習等の組合せ・バランス）、学習指導法（少人数授業、対話・討論型授業、多様なメディアの活用、能力別授業の実施等）の工夫を積極的に行っているか。
	2-2-2	授業外の学修時間確保など、単位の実質化のための配慮がなされているか	①学生の主体的な学修を促し、十分かつ必要な学修時間を確保するような工夫（例えば、学生が準備学習・復習など主体的な学修を行えるような授業時間外の学修時間の確保、学生の主体的な学修を促すための組織的な履修指導、シラバスを利用した準備学習の指示、レポート提出や小テストの実施、履修科目の登録の上限設定等）がなされているか。 ②授業評価アンケートの結果（学生の授業以外の学修時間の状況、教員による働きかけの状況）を踏まえ、学生の時間外の主体的な学修は十分に行われているか。

基準2 カリキュラムの適切さ

評価指針(点検項目)		確認事項
2-2-3	科目の目標に応じた適切な評価方法が定められ、適切な成績評価、単位認定がなされているか。また、そのことを組織として確認しているか。	<p>①科目の目標に応じて、例えば、レポート、中間テスト、最終試験の組合せにより、成績（秀、優、良、可等）を判定するといった成績評価方法が定められ、明示されているか。</p> <p>②成績評価の妥当性の事後チェック（偏りの点検）、その他成績評価分布についてのガイドライン、答案の返却、模範解答あるいは採点基準の提示等を実施しているか。</p> <p>③成績評価の分布の点検を組織的に実施しているか。</p> <p>④GPA制度を実施している場合は、その目的を定めて実施しているか。</p> <p>⑤個人指導等が中心となる科目の場合は、成績評価の客観性を担保するための措置を実施しているか。</p>
2-2-4	シラバスの内容は適切に記載されているか	<p>①シラバスに、教育・学生支援機構『シラバスを作成する際のガイドライン』に従い、授業名、担当教員名、授業の目的・到達目標、授業形態、各回の授業内容、成績評価方法、成績評価基準、準備学習等についての具体的な指示、教科書・参考文献、履修条件等が記載されており、学生が各授業科目の準備学習等を進めるための基本となるものとして、全科目、全項目について記入されているか。</p> <p>②授業評価アンケートの結果（問 シラバスには、授業の目標や計画、評価方法が適切に示されていたと思うか）を踏まえ、シラバスは適切に記載されていたか。</p> <p>③芸術等の分野における個人指導による実技の授業等については、大学等の目的に則した方法によって、授業計画が示されているか（ただし、該当する科目がある場合に限り）。</p>
2-2-5	シラバスの記載内容についてチェックしているか	①シラバスの記載内容を組織的にチェックするための方針が明文化されており、それに基づきシラバスをチェックしているか。
2-2-6	適切な学修支援体制（履修指導、学習相談など）が整っているか	<p>①履修指導 ガイダンス、担任制、学修成果の状況の組織的把握と対応、学修計画の指導、能力別クラス分け、基礎学力不足の学生に対する指導・助言、補習授業等が行われているか。</p> <p>②学修相談 オフィスアワーの設定、ネットワーク（NBAS の利用を含む）を活用した学習相談等、各学部等の固有の事情等に応じて、学習相談、助言等の学習支援が行われているか。</p> <p>③履修上特別な支援を要する学生に対する学修支援 履修上特別な支援を要する学生等（障害のある学生、留</p>

基準2 カリキュラムの適切さ	評価指針(点検項目)		確認事項
2-2-7	NBAS を用いている場合、学修到達目標に対する達成度のアセスメントを定期的に行っているか		①NBAS を活用した達成度のアセスメントが定期的に行われているか。
基準3 学修成果の評価と達成状況	評価指針(点検項目)		確認事項
	3-1	『目標としての学修成果』に学生が到達したかどうか状況を把握する適切な方法(学修成果の評価方法)を定めているか	<p>① 直接評価と間接評価を組み合わせることで、「目標としての学修成果(プログラムの到達目標で掲げられた資質・能力)」を不足なく評価できるようにデザインされているか。</p> <p>②特に集大成科目における直接評価に関して、ターゲットとする到達目標の達成度を判断するための評価基準(ルーブリック等)が作成されているか。</p>
	3-2	『目標としての学修成果』があがっているか	<p>①評価指針3-1で定めた評価方法の実施の結果、全体の傾向から、当該プログラムの学生は目標とする水準に達しているといえるかどうか。</p> <p>②評価指針3-1で定めた評価方法の実施の結果、カリキュラムの編成の見直しや、特定の資質・能力を育てるための科目群の見直し、学修支援の方法の見直しなどをする必要があるかどうか。</p>
	3-3	卒業率の状況、また卒業要件単位を修得した学生集団の成績分布は適切か	<p>①標準修業年限内の卒業率は適切か。</p> <p>②卒業要件単位を修得した学生集団の成績分布は適切か。</p>

#### (4) 実施過程

学士課程における第1回学位プログラム評価（総合点検）は、下図に示すとおり、3つの段階に分けて実施した。

第1段階：「カリキュラムの適切さ」の点検（令和2年9月～）

第2段階：「学修成果の達成状況」の点検（令和2年12月～）

第3段階：「学位プログラム評価（総合点検）報告書」の作成（令和3年8月～）

※点検に当たって作成した根拠資料等については、可能な限り機関別認証評価にも活用することとした。また、各プログラムによる点検の適切さを確保するため、大学改革・大学評価委員会の下に学内教員によるワーキング・グループを設け、プログラム毎に点検状況の妥当性についてレビューを行なった。

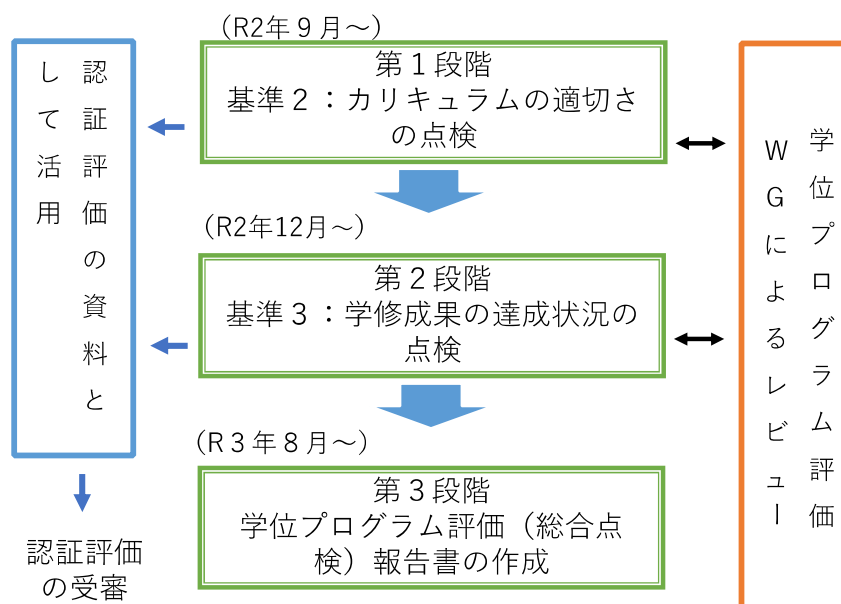


図1 学士課程における第1回学位プログラム評価（総合点検）の実施過程

#### (5) 実施体制

大学改革・大学評価委員会の下、総務部企画課及び経営戦略本部教育戦略統括室において点検を実施した。



## 2 各学部の第1回学位プログラム評価（総合点検）報告書

### 2.1 報告書の構成

報告書は、評価指針（点検項目）に即したプログラム毎の最終的な評価結果と、学部等として共通に取り組むべき主な課題と改善計画について、学部長等の責任において記述したものである。

なお、記述に当たっては、学部長等に、各プログラムが実施した点検結果（評価指針を満たしているか否かの確認結果、判断の理由、問題点・課題、改善計画等）と、それに対する学位プログラム評価ワーキング・グループのレビュー（点検の妥当性評価と課題・改善計画等に関するコメント）結果を参照して、課題を抽出し、改善計画を策定するよう求めた。

### 2.2 各学部から提出された報告書

<掲載順>

- ・人文学部
- ・教育学部
- ・法学部
- ・経済科学部
- ・理学部
- ・医学部医学科
- ・医学部保健学科
- ・歯学部
- ・工学部
- ・農学部
- ・創生学部

## 第1回学位プログラム評価（総合点検）報告書

プログラム名		評価指針	評価結果	主な課題と改善計画
1	心理・人間学プログラム	2-1-1	—	<p>&lt;人文学部の課題&gt;</p> <p>学部の特性として幅広い学問領域からなっており、主専攻プログラムもかなり多様な専門領域が混在している。幅広い教養をもとに専門性を高めるという意味でこれは学部の強みでもあるが、同時に、学部全体の体系的なカリキュラムの編成と個々の専門の学修の双方の整合的な成立に困難が生じうる。</p> <p>また、集大成科目としての卒業論文の評価基準を個々の専門分野内で定めており、学部として統一的に定めていないことも早急に克服すべき課題である。</p> <p>&lt;改善計画&gt;</p> <p>2020年度カリキュラムであるから2023年度までにはカリキュラムの見直しを行い、上記の問題への対処をし、必要ならば改訂を2024年度に行う。</p> <p>卒業論文の評価については、学部として統一的なルーブリックの作成を2021年度内の決定を目指して検討する。</p>
		2-1-2	満たしている	
		2-1-3	満たしている	
		2-2-1	—	
		2-2-2	—	
		2-2-3	—	
		2-2-4	—	
		2-2-5	—	
		2-2-6	—	
		2-2-7	—	
		3-1	—	
		3-2	—	
3-3	—			
プログラム名		評価指針	評価結果	
2	社会文化学プログラム	2-1-1	—	
		2-1-2	満たしている	
		2-1-3	満たしている	
		2-2-1	—	
		2-2-2	—	

		2-2-3	—	
		2-2-4	—	
		2-2-5	—	
		2-2-6	—	
		2-2-7	—	
		3-1	—	
		3-2	—	
		3-3	—	
	<b>プログラム名</b>	<b>評価指針</b>	<b>評価結果</b>	
3	言語文化学プログラム	2-1-1	—	
		2-1-2	満たしている	
		2-1-3	満たしている	
		2-2-1	—	
		2-2-2	—	
		2-2-3	—	
		2-2-4	—	
		2-2-5	—	
		2-2-6	—	
		2-2-7	—	
		3-1	—	
		3-2	—	
		3-3	—	

令和3年 9月 17日 人文学部長 中村 潔

## 第1回学位プログラム評価（総合点検）報告書

プログラム名		評価指針	評価結果	主な課題と改善計画
1	学校教員養成プログラム	2-1-1	—	本学部のプログラムでは、今回の自己点検の評価観点と基準に照らした限り、おおむね問題点は見受けられず、学位プログラム評価WGのピアレビュー結果からも多くの項目において「満たしている」との評価を受けている。ただし、点検項目2-2-7の評価結果は、満たしていないとなっているが、WGレビュー結果のようにNBASを利用していないため、自己点検は「妥当である」との判断が示されている。学修成果の評価や学生支援については、教員養成学部という特性から初年次から4年間を通じた専門性を重視したカリキュラムを編成しており、さらに令和3年度入学生からは複数免許の取得を卒業要件に課し、卒業単位がこれまでより7単位多く取得しなければならない現状があり、更なるPDCAサイクルの充実と向上を行っていく。
		2-1-2	満たしている	
		2-1-3	満たしている	
		2-2-1	満たしている	
		2-2-2	ある程度満たしている	
		2-2-3	満たしている	
		2-2-4	満たしている	
		2-2-5	満たしている	
		2-2-6	満たしている	
		2-2-7	満たしていない	
		3-1	—	
		3-2	—	
3-3	—			

令和3年 9月 22日 教育学部長 八坂 剛史

## 第1回学位プログラム評価（総合点検）報告書

プログラム名		評価指針	評価結果	主な課題と改善計画
1	法学プログラム	2-1-1	—	<p>集大成科目を通じた学修成果の直接評価のあり方及びルーブリックの導入手法について課題が残されている。令和2年度はディプロマ・ポリシーを下敷きにした試行的な調査を行ったが、その妥当性やDP達成度の検証を確認する体制が整備されてない。また、カリキュラムの妥当性についても組織的検討体制が十分に整備されていないため、学生の成長の度合いなどを適切に検討することが難しい。</p> <p>現在は執行部及び学務委員会においてこれらの検討を進めているが、学部全体で認識を共有するために、学務委員会の下に評価担当の委員を設置し、その下に作業部会を設置して議論を進める。同時に関連するFDを学部で実施し、令和4年度までに段階的にDP達成度を評価するための枠組みを作成し、令和5年度に各プログラムで実施する。法曹養成プログラムでは令和3年度に早期卒業、令和4年度に卒業生を輩出することになるので、その際にプログラムの達成状況について卒業する学生への聞き取りなどを行いDPとの関連を確認しカリキュラムの妥当性を検討する。</p>
		2-1-2	満たしている	
		2-1-3	満たしている	
		2-2-1	ある程度満たしている	
		2-2-2	満たしている	
		2-2-3	ある程度満たしている	
		2-2-4	ある程度満たしている	
		2-2-5	ある程度満たしている	
		2-2-6	満たしている	
		2-2-7	満たしていない	
		3-1	ある程度満たしている	
		3-2	ある程度満たしている	
3-3	ある程度満たしている			
プログラム名		評価指針	評価結果	
2	法曹養成プログラム	2-1-1	—	
		2-1-2	満たしている	
		2-1-3	満たしている	
		2-2-1	—	
		2-2-2	—	

	2-2-3	—	
	2-2-4	—	
	2-2-5	—	
	2-2-6	—	
	2-2-7	—	
	3-1	—	
	3-2	—	
	3-3	—	

令和3年 9月22日 法学部長 渡 辺 豊

## 第1回学位プログラム評価（総合点検）報告書

プログラム名		評価指針	評価結果	主な課題と改善計画
1	経済学プログラム	2-1-1	—	<p>&lt;プログラムに共通する課題&gt;</p> <p>本学部のプログラムでは、今回の自己点検の評価観点と基準に照らした限り、問題点は見受けられず、学位プログラム評価WGのピアレビュー結果からも「妥当である」との評価を受けている。ただし、既に一度実施したプログラム配属と今後実施予定の転プログラムには改善の余地があると思われる。プログラム配属では学生の希望に応じてプログラムを学生に割り振っているが、学位プログラム評価WGのピアレビューでも転プログラムについて心配しているなど、学生の希望に応じたプログラム配属が十分に上手く行われているかどうかは分からない。</p> <p>&lt;改善計画&gt;</p> <p>転プログラムという制度もあるが、最初のプログラム配属で各学生に向けたプログラムを上手く割り振ることが特に大事である。プログラム配属で学生の希望を問う際、学生が4プログラムの違いを良く理解していないと各学生に向けたプログラムを上手く割り振ることはできない。状況改善のため各プログラムに学生が4プログラムの違いをより良く理解できるような機会及び資料を増やすことを4プログラムに要請したい。</p>
		2-1-2	満たしている	
		2-1-3	満たしている	
		2-2-1	—	
		2-2-2	—	
		2-2-3	—	
		2-2-4	—	
		2-2-5	—	
		2-2-6	—	
		2-2-7	—	
		3-1	—	
		3-2	—	
3-3	—			
プログラム名		評価指針	評価結果	
2	経営学プログラム	2-1-1	—	
		2-1-2	満たしている	
		2-1-3	満たしている	
		2-2-1	—	
		2-2-2	—	

		2-2-3	—	
		2-2-4	—	
		2-2-5	—	
		2-2-6	—	
		2-2-7	—	
		3-1	—	
		3-2	—	
		3-3	—	
プログラム名		評価指針	評価結果	
3	学際日本学プログラム	2-1-1	—	
		2-1-2	満たしている	
		2-1-3	満たしている	
		2-2-1	—	
		2-2-2	—	
		2-2-3	—	
		2-2-4	—	
		2-2-5	—	
		2-2-6	—	
		2-2-7	—	
		3-1	—	
		3-2	—	
		3-3	—	
プログラム名		評価指針	評価結果	
4	地域リーダープログ	2-1-1	—	



ラム	2-1-2	満たしている
	2-1-3	ある程度満たしている
	2-2-1	—
	2-2-2	—
	2-2-3	—
	2-2-4	—
	2-2-5	—
	2-2-6	—
	2-2-7	—
	3-1	—
	3-2	—
	3-3	—

令和3年 9月 22日 経済科学部長 山崎 剛志

## 第1回学位プログラム評価（総合点検）報告書

プログラム名		評価指針	評価結果	主な課題と改善計画
1	数学プログラム	2-1-1	—	<p>&lt;プログラムに共通する課題&gt;</p> <p>カリキュラムの適切さを確認するため、学習時間の確保への配慮について教員間でシラバスを点検し、成績評価の厳密化について学務委員会において各授業科目の成績分布を基に点検を行っているが、これらの実施報告書を作成しておらず、学生への調査も実施していない。このため、学習時間や学習達成度の観点からカリキュラムを点検・評価する体制が確立されていない。</p> <p>&lt;改善計画&gt;</p> <p>学部の教育推進委員会で、令和4年度までに学生の学習時間を確保するための取組や成績評価の厳密化の実施方法について検討し、教育カリキュラムを点検・評価する体制の整備について議論を進める。また、すでに理学部で実施しているループリックによる学習達成度自己評価、学務情報システムを活用した学生による学習達成度自己評価および新たに実施する学生対象学習時間調査の結果を基にFDを開催し、令和5年度に教育カリキュラムの改善を行う。</p>
		2-1-2	満たしている	
		2-1-3	満たしている	
		2-2-1	ある程度満たしている	
		2-2-2	ある程度満たしている	
		2-2-3	ある程度満たしている	
		2-2-4	ある程度満たしている	
		2-2-5	ある程度満たしている	
		2-2-6	ある程度満たしている	
		2-2-7	ある程度満たしている	
		3-1	満たしている	
		3-2	満たしている	
3-3	満たしている			
プログラム名		評価指針	評価結果	
2	物理学プログラム	2-1-1	—	
		2-1-2	満たしている	
		2-1-3	満たしている	
		2-2-1	ある程度満たしている	
		2-2-2	ある程度満たしている	

		2-2-3	ある程度満たしている
		2-2-4	ある程度満たしている
		2-2-5	ある程度満たしている
		2-2-6	ある程度満たしている
		2-2-7	ある程度満たしている
		3-1	満たしている
		3-2	満たしている
		3-3	満たしている
プログラム名		評価指針	評価結果
3	化学プログラム	2-1-1	—
		2-1-2	満たしている
		2-1-3	満たしている
		2-2-1	ある程度満たしている
		2-2-2	ある程度満たしている
		2-2-3	ある程度満たしている
		2-2-4	ある程度満たしている
		2-2-5	ある程度満たしている
		2-2-6	ある程度満たしている
		2-2-7	ある程度満たしている
		3-1	満たしている
		3-2	満たしている
		3-3	満たしている
プログラム名		評価指針	評価結果
4	生物学プログラム	2-1-1	—

		2-1-2	満たしている
		2-1-3	満たしている
		2-2-1	満たしている
		2-2-2	満たしている
		2-2-3	満たしている
		2-2-4	満たしている
		2-2-5	満たしている
		2-2-6	満たしている
		2-2-7	満たしていない
		3-1	満たしている
		3-2	満たしている
		3-3	満たしている
	<b>プログラム名</b>	<b>評価指針</b>	<b>評価結果</b>
5	地質科学プログラム	2-1-1	—
		2-1-2	満たしている
		2-1-3	満たしている
		2-2-1	ある程度満たしている
		2-2-2	ある程度満たしている
		2-2-3	満たしている
		2-2-4	ある程度満たしている
		2-2-5	ある程度満たしている
		2-2-6	満たしている
		2-2-7	満たしていない
		3-1	満たしている

		3-2	満たしている
		3-3	満たしている
プログラム名		評価指針	評価結果
6	自然環境科学プログラム	2-1-1	—
		2-1-2	満たしている
		2-1-3	満たしている
		2-2-1	ある程度満たしている
		2-2-2	ある程度満たしている
		2-2-3	ある程度満たしている
		2-2-4	ある程度満たしている
		2-2-5	ある程度満たしている
		2-2-6	満たしている
		2-2-7	満たしていない
		3-1	満たしている
		3-2	満たしている
		3-3	満たしている
プログラム名		評価指針	評価結果
7	フィールド科学人材育成プログラム（理学部）	2-1-1	—
		2-1-2	満たしている
		2-1-3	満たしている
		2-2-1	ある程度満たしている
		2-2-2	ある程度満たしている
		2-2-3	ある程度満たしている
		2-2-4	ある程度満たしている

	2-2-5	ある程度満たしている	
	2-2-6	ある程度満たしている	
	2-2-7	ある程度満たしている	
	3-1	満たしている	
	3-2	満たしている	
	3-3	満たしている	

令和3年 9月22日 理学部長 大鳥 範和

## 第1回学位プログラム評価（総合点検）報告書

プログラム名		評価指針	評価結果	主な課題と改善計画
1	医学教育プログラム	2-1-1	—	<p>&lt;プログラムに共通する課題&gt;</p> <p>本学部プログラムは、2013年、全国80医学部・医科大学に先駆けて日本初の医学教育分野別評価トライアルを受審して以降、2017年の改善報告書、各年度の年次報告書を経て、日本医学教育評価機構（JACME）により正式に国際基準を満たすものと認定されたものである（医学教育分野別評価基準日本版 Ver. 2.33 準拠）（認定期間2023年3月31日まで）。学位プログラム評価指針に基づいたディプロマ・ポリシーと、科目構成・学修成果の対応を明らかにし、全シラバス内容の精査と改善が求められている。</p> <p>&lt;今後の計画&gt;</p> <p>2022年度に予定されているJACMEによる医学教育分野別評価受審（2巡目）に向け、受審対応チームを設置し、議論を進める。2022年度までに、ディプロマ・ポリシーと、科目構成・学修成果の対応を明らかにし、全シラバス内容の精査と改善を行う。これまでの取り組みの質を保ちつつ、関連する実務をより多くの教員に分散させ、持続可能にしていけるように、2021年度から特に若手の教員に対して、ワークショップ形式のFDを開催するなどして、人材育成を行っていく。</p>
		2-1-2	満たしている	
		2-1-3	満たしている	
		2-2-1	満たしている	
		2-2-2	ある程度満たしている	
		2-2-3	ある程度満たしている	
		2-2-4	ある程度満たしている	
		2-2-5	ある程度満たしている	
		2-2-6	満たしている	
		2-2-7	ある程度満たしている	
		3-1	ある程度満たしている	
		3-2	ある程度満たしている	
		3-3	ある程度満たしている	

令和3年9月27日 医学部長 染矢 俊幸

## 第1回学位プログラム評価（総合点検）報告書

プログラム名		評価指針	評価結果	主な課題と改善計画
1	看護学プログラム	2-1-1	—	<p>&lt;プログラムに共通する課題&gt;</p> <p>医学部保健学科では3つの学位プログラムがあるが、いずれも国家資格としての医療専門職を育成するための教育課程であり、各プログラムとも国家資格取得者数確保・維持が最終的な目標、評価となるが、教育課程は科目の段階的な積み重ねで構成される。科目ごとの学習目標の妥当性や到達度の評価をそれぞれプログラムごとに評価する体制と評価の時期が一定化されていない、また、科目構成とプログラムの到達目標に到達するためのカリキュラムツリー・カリキュラムマップとの整合性が理解されにくいなどの面が課題である。</p> <p>&lt;改善計画&gt;</p> <p>学科学務委員会の下に各専攻からのメンバーで構成されるワーキンググループを設置しており、令和4年度までに学位プログラムごとに科目の学習目標の妥当性や到達度の評価を実施し、学務委員会では評価の認識・基準を議論し、令和5年度までに学科としての評価の統一性を確認し修正していく。</p>
		2-1-2	満たしている	
		2-1-3	満たしている	
		2-2-1	満たしている	
		2-2-2	満たしている	
		2-2-3	満たしている	
		2-2-4	満たしている	
		2-2-5	満たしている	
		2-2-6	満たしている	
		2-2-7	満たしている	
		3-1	満たしている	
		3-2	満たしている	
3-3	ある程度満たしている			
プログラム名		評価指針	評価結果	
2	放射線技術科学プログラム	2-1-1	—	
		2-1-2	満たしている	
		2-1-3	満たしている	
		2-2-1	満たしている	
		2-2-2	満たしている	



		2-2-3	ある程度満たしている
		2-2-4	満たしている
		2-2-5	満たしている
		2-2-6	満たしている
		2-2-7	満たしている
		3-1	満たしている
		3-2	満たしている
		3-3	ある程度満たしている
プログラム名		評価指針	評価結果
3	検査技術科学プログラム	2-1-1	—
		2-1-2	満たしている
		2-1-3	満たしている
		2-2-1	満たしている
		2-2-2	満たしている
		2-2-3	満たしている
		2-2-4	満たしている
		2-2-5	ある程度満たしている
		2-2-6	満たしている
		2-2-7	ある程度満たしている
		3-1	ある程度満たしている
		3-2	ある程度満たしている
		3-3	満たしている

令和3年9月14日 医学部保健学科長 小山 諭

## 第1回学位プログラム評価（総合点検）報告書

プログラム名		評価指針	評価結果	主な課題と改善計画
1	歯学教育プログラム	2-1-1	—	今回の自己点検の評価観点と基準に照らす限り、大きな問題はみられず、学位プログラム評価WGのピアレビューからも「満たしている」との評価を受けている。ただし、学修成果の評価や学生支援の一部教員への集中、10以上の教員削減による過剰負担があり、その軽減を図る必要がある。これまでの取り組みの質を保ちつつ、関連する実務をより多くの教員に分散させ、持続可能にしていけるように、令和4年度から特に若手・新任教員に対して、ワークショップ形式のFDの開催等により人材育成に努める。また、それをサポートするために、各プログラムの教育に関わる情報を集約・分析するための委員会を、歯学部学務委員会のもとに設置する。なお、「評価指針2-2-7」はNBASを活用した達成度アセスメントに関するもので、本学部では「重要科目に埋め込まれたパフォーマンス評価（PEPA）」により達成度の評価を行っており、用いていない。
		2-1-2	満たしている	
		2-1-3	満たしている	
		2-2-1	満たしている	
		2-2-2	満たしている	
		2-2-3	満たしている	
		2-2-4	満たしている	
		2-2-5	満たしている	
		2-2-6	満たしている	
		2-2-7	満たしていない	
		3-1	満たしている	
		3-2	満たしている	
3-3	満たしている			
プログラム名		評価指針	評価結果	
2	口腔保健福祉学教育プログラム	2-1-1	—	
		2-1-2	満たしている	
		2-1-3	満たしている	
		2-2-1	満たしている	
		2-2-2	満たしている	

	2-2-3	満たしている	
	2-2-4	満たしている	
	2-2-5	満たしている	
	2-2-6	満たしている	
	2-2-7	満たしていない	
	3-1	満たしている	
	3-2	満たしている	
	3-3	満たしている	

令和3年 9月 14日 歯学部長 前田 健康

## 第1回学位プログラム評価（総合点検）報告書

プログラム名		評価指針	評価結果	主な課題と改善計画
1	機械システム工学プログラム	2-1-1	—	<p>&lt;総合点検を通して見えた課題&gt;</p> <p>学部改組により、学部共通科目が増え、同時に全プログラムにおいてカリキュラムマップ、カリキュラムフローが整備されたが、一学科体制のメリットが活かしきれていない。また、学修成果の評価をアシストすべき NBAS の活用が進んでいない状況である。成績評価結果のフィードバックシステム、答案返却のルール等も整っていない。</p> <p>&lt;改善計画&gt;</p> <p>英語の卒業要件単位減、教員数減少等の問題に対応するため、グローバル人材育成に資する科目や類似科目をプログラム間で共有するなど、一学科体制が活きる科目配置を工学力教育センターの協力の下検討する。また、学生部専門委員会の下、NBAS の有効利用に向けた FD を学部で実施し、令和5年度までに全プログラムでNBAS を活用するための枠組みを構築する。加えて適切な成績評価、単位認定を実現するため、令和5年度までに解答例開示、答案返却等、成績評価に関するフィードバックシステムを学部として構築する。</p>
		2-1-2	満たしている	
		2-1-3	満たしている	
		2-2-1	満たしている	
		2-2-2	ある程度満たしている	
		2-2-3	ある程度満たしている	
		2-2-4	満たしている	
		2-2-5	満たしている	
		2-2-6	満たしている	
		2-2-7	満たしていない	
		3-1	ある程度満たしている	
		3-2	ある程度満たしている	
		3-3	満たしている	
プログラム名		評価指針	評価結果	
2	社会基盤工学プログラム	2-1-1	—	
		2-1-2	満たしている	
		2-1-3	満たしている	
		2-2-1	満たしている	
		2-2-2	満たしている	

		2-2-3	満たしている
		2-2-4	満たしている
		2-2-5	満たしている
		2-2-6	満たしている
		2-2-7	満たしていない
		3-1	満たしている
		3-2	満たしている
		3-3	満たしている
プログラム名		評価指針	評価結果
3	電子情報通信プログラム	2-1-1	—
		2-1-2	満たしている
		2-1-3	満たしている
		2-2-1	満たしている
		2-2-2	ある程度満たしている
		2-2-3	ある程度満たしている
		2-2-4	ある程度満たしている
		2-2-5	満たしている
		2-2-6	満たしている
		2-2-7	満たしている
		3-1	満たしている
		3-2	満たしている
		3-3	満たしている
プログラム名		評価指針	評価結果
4	知能情報システム	2-1-1	—

	プログラム	2-1-2	ある程度満たしている
		2-1-3	ある程度満たしている
		2-2-1	満たしている
		2-2-2	満たしている
		2-2-3	満たしている
		2-2-4	満たしている
		2-2-5	満たしている
		2-2-6	満たしている
		2-2-7	ある程度満たしている
		3-1	満たしている
		3-2	満たしている
		3-3	ある程度満たしている
		プログラム名	
5	化学システム工学プログラム	2-1-1	—
		2-1-2	満たしている
		2-1-3	満たしている
		2-2-1	満たしている
		2-2-2	満たしている
		2-2-3	ある程度満たしている
		2-2-4	満たしている
		2-2-5	満たしている
		2-2-6	満たしている
		2-2-7	満たしている
		3-1	満たしている

		3-2	満たしている
		3-3	満たしている
	<b>プログラム名</b>	<b>評価指針</b>	<b>評価結果</b>
6	材料科学プログラム	2-1-1	—
		2-1-2	満たしている
		2-1-3	満たしている
		2-2-1	満たしている
		2-2-2	ある程度満たしている
		2-2-3	満たしている
		2-2-4	満たしている
		2-2-5	満たしている
		2-2-6	満たしている
		2-2-7	満たしていない
		3-1	満たしている
		3-2	満たしている
		3-3	満たしている
	<b>プログラム名</b>	<b>評価指針</b>	<b>評価結果</b>
7	建築学プログラム	2-1-1	—
		2-1-2	満たしている
		2-1-3	満たしている
		2-2-1	満たしている
		2-2-2	満たしている
		2-2-3	満たしている
		2-2-4	ある程度満たしている

		2-2-5	満たしている
		2-2-6	満たしている
		2-2-7	満たしていない
		3-1	満たしている
		3-2	ある程度満たしている
		3-3	ある程度満たしている
プログラム名		評価指針	評価結果
8	人間支援感性科学プログラム	2-1-1	—
		2-1-2	満たしている
		2-1-3	満たしている
		2-2-1	満たしている
		2-2-2	ある程度満たしている
		2-2-3	満たしている
		2-2-4	満たしている
		2-2-5	満たしている
		2-2-6	満たしている
		2-2-7	ある程度満たしている
		3-1	満たしている
		3-2	満たしている
		3-3	満たしている
プログラム名		評価指針	評価結果
9	協創経営プログラム	2-1-1	—
		2-1-2	満たしている
		2-1-3	満たしている



	2-2-1	満たしている	
	2-2-2	満たしている	
	2-2-3	ある程度満たしている	
	2-2-4	満たしている	
	2-2-5	満たしている	
	2-2-6	満たしている	
	2-2-7	満たしていない	
	3-1	満たしている	
	3-2	—	
	3-3	—	

令和3年 9月 22日 工学部長 鈴木 敏夫

## 第1回学位プログラム評価（総合点検）報告書

プログラム名		評価指針	評価結果	主な課題と改善計画
1	応用生命科学プログラム	2-1-1	—	<p>&lt;本学部の学士教育の事情&gt;</p> <p>本学部の自己点検評価結果では、各プログラムの質がある程度担保されていると評価できた。一方、学部改組後の第1期生が令和2年度に卒業したばかりであるため、各プログラムの人材育成目標の達成度や、そのために適切なカリキュラムが編成されているかどうかは、今後検証していくことになる。</p> <p>&lt;今後の計画&gt;</p> <p>各プログラムにおけるカリキュラムや学生支援体制の問題点を検証するために、卒業生や就職先に対するインタビュー調査を令和5年度に実施する。また、DPと紐付けたルーブリック評価については、未実施のプログラムでは令和4年度中に試行し、令和5年度に全プログラムで実施する。それとともに、現在実施している卒業時アンケートにルーブリック評価に関する項目を追加し、カリキュラムの点検を行う。これらに基づいて、令和6年度に各プログラムの自己点検とカリキュラム改善の議論を行う。</p>
		2-1-2	満たしている	
		2-1-3	満たしている	
		2-2-1	ある程度満たしている	
		2-2-2	ある程度満たしている	
		2-2-3	ある程度満たしている	
		2-2-4	ある程度満たしている	
		2-2-5	満たしている	
		2-2-6	満たしている	
		2-2-7	ある程度満たしている	
		3-1	ある程度満たしている	
		3-2	ある程度満たしている	
		3-3	満たしている	
プログラム名		評価指針	評価結果	
2	食品科学プログラム	2-1-1	—	
		2-1-2	満たしている	
		2-1-3	満たしている	
		2-2-1	ある程度満たしている	
		2-2-2	ある程度満たしている	

		2-2-3	ある程度満たしている
		2-2-4	満たしている
		2-2-5	ある程度満たしている
		2-2-6	満たしている
		2-2-7	満たしていない
		3-1	ある程度満たしている
		3-2	満たしている
		3-3	満たしている
<b>プログラム名</b>		<b>評価指針</b>	<b>評価結果</b>
3	生物資源科学プログラム	2-1-1	—
		2-1-2	満たしている
		2-1-3	満たしている
		2-2-1	ある程度満たしている
		2-2-2	ある程度満たしている
		2-2-3	ある程度満たしている
		2-2-4	ある程度満たしている
		2-2-5	ある程度満たしている
		2-2-6	満たしている
		2-2-7	満たしていない
		3-1	ある程度満たしている
		3-2	ある程度満たしている
		3-3	満たしている
<b>プログラム名</b>		<b>評価指針</b>	<b>評価結果</b>
4	流域環境学プログラ	2-1-1	—

ム		2-1-2	満たしている
		2-1-3	満たしている
		2-2-1	ある程度満たしている
		2-2-2	ある程度満たしている
		2-2-3	ある程度満たしている
		2-2-4	ある程度満たしている
		2-2-5	ある程度満たしている
		2-2-6	満たしている
		2-2-7	満たしている
		3-1	満たしている
		3-2	—
		3-3	ある程度満たしている
<b>プログラム名</b>		<b>評価指針</b>	<b>評価結果</b>
5	フィールド科学人材育成プログラム（農学部）	2-1-1	—
		2-1-2	満たしている
		2-1-3	満たしている
		2-2-1	ある程度満たしている
		2-2-2	ある程度満たしている
		2-2-3	ある程度満たしている
		2-2-4	ある程度満たしている
		2-2-5	ある程度満たしている
		2-2-6	満たしている
		2-2-7	ある程度満たしている
	3-1	満たしている	

		3-2	—	
		3-3	満たしている	

令和3年9月22日 農学部長 中田 誠

## 第1回学位プログラム評価（総合点検）報告書

プログラム名		評価指針	評価結果	主な課題と改善計画
1	創生学修プログラム	2-1-1	—	<p>[総括]</p> <p>本学部が創立してから4年間に過ぎているが、ここまでの本学部の学修指導体制は概ね計画通り、順調に運んでいる。そのため、本学部の学位プログラム評価の結果は、概ね良好である。若干の改善点については、2021年度のカリキュラム改訂によって、改善されることが見込まれており、引き続き、学位プログラム評価に適応した学士課程として、学修環境が整備されつつある。</p> <p>[目標]</p> <p>全般的な観点から、目標を挙げるとすると、自己創造型の探究型学修の総まとめとなるリフレクションデザイン IV についてのルーブリックの精度を上げていくことが考えられる。本学部では、卒業研究＝学士課程学修の総まとめ、という考え方ではなく、卒業研究も含めた4年間の学修全体を総合的に評価することが総まとめとなる。この考え方が適切に反映されるようなルーブリックの完成に向けて、検討を重ねていくことが当面の目標である。</p>
		2-1-2	満たしている	
		2-1-3	満たしている	
		2-2-1	満たしている	
		2-2-2	満たしている	
		2-2-3	ある程度満たしている	
		2-2-4	満たしている	
		2-2-5	満たしている	
		2-2-6	満たしている	
		2-2-7	満たしている	
		3-1	満たしている	
		3-2	ある程度満たしている	
		3-3	満たしている	

令和3年 8月 23日 創生学部長 中村 隆志

### 3 今後の取り組み

本報告書の冒頭に述べたように、学位プログラム評価は、本学における教育の質保証を目的とし、学位プログラムにおける人材育成の状況を点検し、見出された諸課題の適切な改善を行うことを意図している。学部等においては、総合点検を通じて見出されたプログラム毎の課題、学部共通の課題等を踏まえて策定された改善計画の着実な実施に努めることとする。

このことを踏まえ、令和9年度に予定する第2回学位プログラム評価（総合点検）までの中間フォローアップを令和6年度に行い、第1回目の総合点検で見出された課題等の改善状況を所用の根拠資料を用いて点検する予定である。また、点検を実施しない年度においても、学部等は、改善計画の実施状況、学修成果等の状況等について継続的にモニターし、適宜、プログラムや授業の改善に努めることとする。